

小・中連携交流「清掃の達人」を通じて、異年齢とのかかわりを深め、自己の心と態度を見つめ直す場（規範意識の育成）を設定する

目的

本校の児童は、高学年を中心に日常的朝の挨拶運動、清掃運動等をまじめに行ったり、人の話を素直に聞いたりするよさをもっている。ただ、ある程度人間関係が固定化されているため、自分から相手を思いやり、考えを伝える力がやや弱く、面をもっている。そこで、多様な集団とのかかわりを深め、その中で人間関係を広げ、より適切なコミュニケーションを図るとともに、ボランティア意識を高めることができるようにする。

内容

●小・中連携による「清掃の達人」の活動

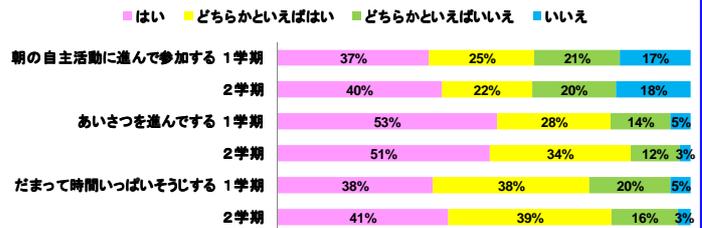
小学校では、1学期の児童への生活面でのアンケートを見ると、黙って時間いっぱい掃除をしていると答えている児童は、38%で低い割合になっている。実際の様子でも、毎年時間いっぱい静かに清掃をすることを生活目標に挙げて指導しているが、なかなか徹底しないという課題がある。

また中学校では、清掃強調週間に教師の観点に基づく観察や周りからの評価に基づいて「清掃の達人」を選出し、清掃のリーダーとして育成する取り組みを続けている。この清掃の達人になった生徒は、清掃の技能だけでなく、清掃に対する意識も高く小学生にとってもよい手本となると考え、小学校で実際に中学生の「清掃の達人」が清掃をして見せ、小学生がその様子から清掃の仕方を学ぶ活動を行った。

まず、中学生が小学生の清掃をしている様子を下見して、どう改善するか話し合い、次に、小学校6年生の教室を中学生が、実際に清掃をして小学生に見せることとした。次に、小学生と中学生が清掃の仕方について話し合いを行った。

その結果、6年生は、中学生から学んだことを整理して、自分たちの清掃のやり方を向上させるとともに、全校集会で全員に紹介した。

ボランティア・挨拶・清掃について



「下見 9月6日（火）」

16:10～16:25 中学生の「清掃の達人」が小学校の6年東組と6年西組の掃除の様子を見る。

16:30～17:30 中学生の「清掃の達人」が小学生の掃除を見て、どのように掃除をしたらよいか話し合い、実際に掃除を試みる。

「当日 9月9日（金）」

13:45～14:00 中学生の「清掃の達人」が6年東組と6年西組で黙ってすみずみまで丁寧に掃除するところを6年生に見せる。

14:10～14:30 体育館で中学生の「清掃の達人」と6年生が意見交換をして交流を行った。

「紹介 9月13日（火）」 全校集会で6年生が中学生の「清掃の達人」について全校児童に紹介した。

こうした清掃活動の交流によって、まず、中学生の黙ってすみずみまできれいに掃除をする姿から6年生が感動し、掃除に対する心構えを学ぶことができた。そして、意欲的に清掃に取り組むようになった。また、異学年で取り組んでいる場所では、下学年に対する言葉かけや指示もより具体的になり、リーダーとして行動できるようになってきている。さらに、全校児童に伝えることによって1年生から5年生までの児童も黙ってすみずみまで掃除をすることができるようになってきている。

6年生の児童にとっては、あんな中学生になりたいと憧れをもったり、こうやっていくことで、中学校に進学してもやっていけると不安が少し解消されたりするきっかけにもつながっている。

また、中学生にとっては、小学生に役に立った、小学生の中学生に対する感想文を読んで誇りに思う等、有能感を感じ自尊感情を高める契機となっている。



成果

毎日の清掃への意識が変わった。ほうきや雑巾の使い方など、きれいにするための清掃の仕方が分かり、時間いっぱい無言清掃ができる（規範意識の高まり）ようになった。また毎朝の自主清掃へ取り組む姿勢（ボランティア活動）が積極的になるとともに、全校的に広まっている。